

JAPAN FEDERAL MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION

JMCC NEWS

全医協連ニュース



発行＝
全国医師協同組合連合会

平成 20 年 7 月 1 日発行 No.109

蒼翠号

◆第36回通常総会開催地案内 ①

「総会開催を目前にして」

●ブロック便り

(広島県医協40周年、九医協連職員研修会、名古屋市医協45周年、関越協議会、四国ブロック協議会)



CONTENTS

◆第36回通常総会開催地案内 ① ②

「総会開催を目前にして」

- 8 国政に携って——「国会よもやま話」……西島英利
- 10 旅行記——「ビクトリアの滝から喜望峰へ」……諏訪求仁雄
- 15 医師協の雑誌から——「都医協連ニュース、滋賀県医協ニュース」
- 16 NUMBERS ②——南蛮図……菅原克郎
- 18 特別座談会——第80回記念選抜甲子園高校野球大会
「優勝校を訪ねて」(沖縄尚学高等学校)
- 24 旅のブラックエッセイ——「夢の古代野外劇場歌劇鑑賞!」……松井昭男
- 26 旅行記——「サワディーカップ タイランド」……渡辺兼司
- 30 水彩の旅——「ぼくのほそ道・スケッチ散歩」〈第3回〉……大森俊次
- 32 全国温泉巡り——「平戸温泉(長崎県)、龍神温泉(和歌山県)」
- 34 旬の食べ物紹介——「岐阜、岡山、徳島、下関」
- 49 ブロック便り——広島県医協設立40周年、九医協連職員研修会、
名古屋市医協創立45周年、関越協議会、四国ブロック協議会
- 55 ——理事会だより……岩田章男
- 58 書籍紹介——「Dr.すなみの脳のおはなし」……角南典生
「ジーン・ワルツ」……海堂 尊
「句集 新白衣」……宗 瑞志
- 61 ——JMCギャラリー(諏訪求仁雄、三好壮一、加藤一雄)



36	[購買部] ・購買部取扱い商品のご案内 ・「平成20年 購買担当職員研修会」概要
43	[福祉部] ・全医協連取扱い保険商品のご紹介 ・全医協連取扱い保険商品一覧
46	[調査企画部] ・「グループウェア」について
56	理事会・部会だより／マンガ

表紙写真：タヒチ島の朝

飛行機はタヒチ島パペーテに夜着く。翌日ホテルの庭には、タヒチの澄み渡った空。その空のもと海は凜いであり、海辺の椰子の木越しに数隻のヨットが停泊しているのが見える。そのヨットには朝日が美しい。

目次写真：ペリーズの朝

中央アメリカコカタン半島東部に位置するペリーズは1981年に独立した英語圏の比較的新しい国である。世界遺産に現在、この国のサンゴ礁が登録されている。ミナント・リッチのマヤ文明の遺跡を見に、グアテマラよりホンジュラスを経てペリーゼに到着した。

写真提供(表紙、目次)：水野幸一(千葉市医師協)

NAGOYA

第36回通常総会開催地案内 ①

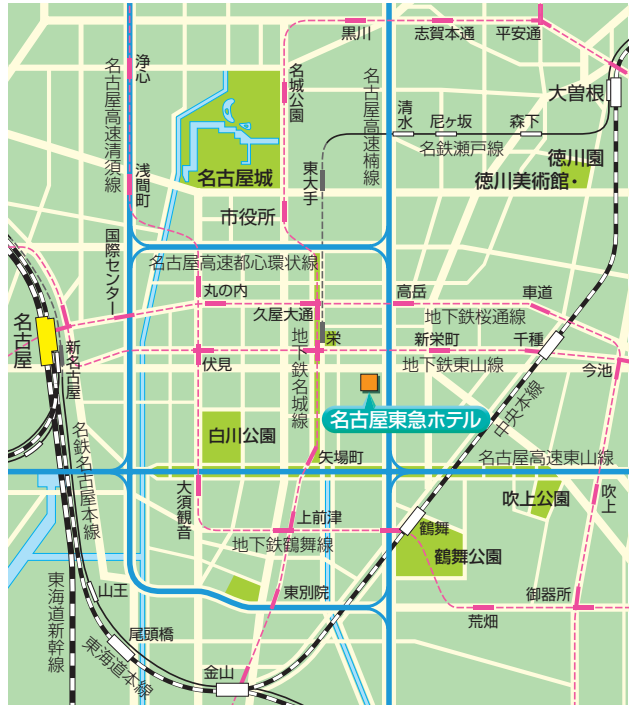
総会開催を目前にして

名古屋市医師会協同組合理事長 早川常彦

第36回全国医師協同組合連合会総会が愛知県名古屋市の東急ホテルで11月1日（土）、2日（日）に開催されるに先立ち、本市を紹介させていただくことを大変光栄に思いますと共に、責任の重大さを痛感しております。ご案内の様に名古屋市のある愛知県は、平成19年には日本で一番元気な県として自動車関連企業等を中心にマスメディアを通して紹介されている所ではありますが、残念ながら医療関係者にとりましてはその元気さはそのまま肌感じられてはけません。元気だとはいわれていますが、愛知県の2008年度予算が16年ぶりのプライマリバランス黒字化を達成したという様な話を伺いますと、医療関係者だけでなく一般庶民にはやはりその実感がないというのが本音だと思えます。

さて元気な愛知県の中心でもある名古屋市の街をみていただくには、まず第一に再開発が進み、超高層ビルも続々完成している名古屋駅周辺があげられると思えます。

代表的な超高層ビルとしてはJRセントラルタワーズ（ツインタワー）、ミッドランドスクエア、名古屋ルーセントタワー、モード学園スパイラルタワーズがあり、来年は名古屋プライムセントラルプロジェクトなども竣工予定で、本市の玄関口にふさわしい情報、経済、文化の発信基地として、また本市の発展、飛躍の



拠点ともなっています。また県下最大の地下街(エスカ・メイチカ・サンロード・ユニモールなど)が駅中心に広がり、数多くのショッピングモール、レストラン街などもあり活気づいています。

2番目に本市を紹介するのに欠かせないエリアとしては、栄・錦を中心とした街かと思えます。テレビ塔を中心に創業1611年といわれる老舗百貨店の松坂屋を中心に多くの百貨店があり、錦三丁目には夜になるとネオン輝く歓楽街としてよく知られている所でもあります。詳細は次号で紹介したいと考えています。

さて少し視点をかえて、2010年に

は400周年を迎えようとしている本市について歴史的な展望をしてみたいと思います。

「尾張名古屋は城で持つ」と言葉のとおり名古屋は名古屋城をはじめ、徳川美術館、熱田神宮など、名古屋の文化や歴史を伝える建造物が多く残る土地柄でもあり、当医協も葵一丁目と徳川家にちなんだ地名として歴史を感じさせる場所に位置しており、距離にして2キロメートルほど離れた所に名古屋城と徳川美術館が所在します。

名古屋城は徳川家康が江戸幕府の安泰のため、東海道の要所として大坂方への備えとして慶長17年(1612年)に築城、その後、明治維新まで250年間徳川家御三家筆頭である尾張徳川家の居城として栄え、かつて名古屋城の本丸には、天守閣の南側に本丸御殿があり、この本丸御殿は、近世城郭御殿の最高傑作といわれ京都二条城の二の丸御殿と並ぶ武家風書院造の双壁と言われていました。昭和5年に国宝に指定されましたが、昭和20年に空襲により天守閣、本丸御殿とも焼失してしまい本丸御殿を郷土名古屋の文化的シンボルとして昭和34年に復元し、いまなお天守閣に金のシャチホコが名古屋の空に輝いています。

城から公共機関で10分程の所に徳川美術館と徳川園があります。徳川美術館は

昭和10年に開館した私立美術館。収蔵品は徳川家康の遺品を中心に、初代義直(家康第九子)以下代々の遺愛品や、その家族が実際に使用した物ばかり1万数千件におよび、中でも有名な「源氏物語絵巻」をはじめ国宝9件、重要文化財57件を含みます。

徳川園は、池泉回遊式の日本庭園として清流が滝から池に流れる自然景観をあらわし、さらに高低差の地形を利用して樹林、岩組など変化にとんだ景観を用いて作られた庭園です。四季を通じて、新緑や紅葉、また牡丹などの花々が楽しめる市民の憩いの場所となっております。

さらに南へ30分程足を延して頂きますと、街中とは思われない熱田神宮の鬱蒼とした森が見えてまいります。神宮には、三種の神器の一つ草薙神剣(くさなぎのみつるぎ)が祀っております。第12代景行天皇の御代、日本武尊は神剣を名古屋市緑区大高町上山に留め置かれたまま三重県亀山市能褒野(のぼの)でなくなり、尊の妃である宮簀媛命(みやすひめのみこと)は、神剣をここ熱田の地にお祀りになったと言われています。以来伊勢神宮につぐ格別のお宮として国家鎮護の神宮として特別のお取り扱いを受ける一方「熱田さん」と呼ばれ親しまれてきました。最後に、名古屋の秋を彩る最大のイベントである名古屋祭りが昭和30年から盛大に行われています。市民と地元企業が

名古屋城

積極的に参加した絢爛豪華な市内パレードでは、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑が700人を従えて行進する英傑行列のほか、市の指定文化財等「山車」、

市文化財「神楽」揃、フラワーカーなども登場します。またバンドフェスティバルなど多彩な会場行事に名古屋を代表する無形文化財が一堂に会する郷土芸能祭を

催す名古屋の街が祭り一色です。
是非この時期にお越し下さい。

名古屋祭りは、平成20年10月11日
(土)・12日(日)です。



名古屋城は、関ヶ原の合戦後江戸幕府を開いた徳川家康が、慶長14年(1609)東海道の要所として、また、大坂(現大阪)方への備えとして、清須(現清須市)から名古屋へ遷府を決定し、加藤清正・福島正則・前田利光等北国・西国の諸大名20名に普請(土木工事)を命じ、天守閣や諸櫓の作事(建築工事)は、慶長17年(1612)にほぼ完成した代表的な平城です。その後、明治維新をむかえるまで名古屋城は、御三家の筆頭尾張徳川家の居城として栄えました。第二次世界大戦中の昭和20年(1945)5月、名古屋空襲の際、大・小天守閣、本丸御殿をはじめ建物のほとんどが焼失しましたが、幸いにも焼失をまぬがれた三つの櫓(西北・西南・東南)、三つの門(表二之門、旧二之丸東二之門、二之丸大手二之門)と本丸御殿障壁画の大部分は、重要文化財として現在に伝えられています。



名古屋城からの眺め



徳川美術館は、侯爵徳川義親の寄贈にも
とつき、御三家筆頭62万石の大大名、尾張
徳川家に伝えられた数々の重宝、いわゆる
「大名道具」をそっくりそのまま収め、昭和
10年(1935)に開館しました。収蔵品は
徳川家康の遺品を中心に、初代義直(家康
九男)をはじめ歴代の遺愛品や、その家族
が実際に使用した物ばかり一万余千件にお
よびます。世界的にも有名な国宝「源氏物
語絵巻」をはじめ国宝9件、重要文化財57
件、重要美術品46件を含み、徳川美術館な
らではの種類の豊富さ、質の高さ、そして
保存状態の良さを誇っています。

徳川美術館



尾張徳川家祖 徳川義直像

【名勝二之丸庭園】

元和年間(1615~23)二之丸御殿の造営に伴って
同御殿の北側に聖堂(金声玉振閣)を中心として
設けられましたが、享保(1716~36)以後たびたび
改修され枯山水回遊式庭園に改められました。



【正門】(焼失・再建)

明治43年に旧江戸
城内の蓮池御門が
移築されましたが、
第二次世界大戦に
より焼失したため、
昭和34年、天守閣
とともに再建され
ました。



【表二之門】(重要文化財)

古くは南二之門といわれ、門柱・冠木とも鉄板張り
とし用材は木割りが太く堅固に造られています。



袖塀は土塀で鉄砲
狭間を開いて要害
としての堅固さを
示しています。

【西北隅櫓】(重要文化財)

戌亥櫓とも清須櫓ともいわれ、他の建物の古材を
転用して建築さ
れています。

外部北面、西面
に千鳥破風が作
られ、「落狭間」
を備えています。



(財)名古屋観光コンベンションビューロー
「『近世武家文化』への誘い」より引用



徳川園

名古屋城本丸の東約3キロメートルの地にある徳川園は、徳川御三家筆頭である尾張藩第二代藩主光友が、元禄8年(1695)に自らの隠居所として大曾根屋敷を造営したことを起源としています。当時の敷地は約13万坪(約44ha)の広さで、庭園内の泉水には16挺立の舟を浮かべたと言われています。光友の没後、この地は尾張藩家老職の成瀬、石河、渡邊三家に譲られました。明治22年(1889)からは尾張徳川家の邸宅となりました。昭和6年(1931)名古屋市は、第十九代当主義親から邸宅と庭園の寄付

を受けた後、改修整備を行い、翌年「徳川園」として一般公開しましたが、第二次世界大戦の大空襲によってほとんどの建物や樹林などが焼失してしまいました。戦後、現代的な都市公園として改修し、市民に利用されてきた徳川園は、平成13年(2001)から日本庭園として再整備を行い、平成16年(2004)に開園しました。徳川園は、矢田川の河岸段丘を生かした高低差のある地形、既存の照葉樹の森、立体的に迫る大きな岩組みが特徴で、変化に富んだ景観を劇的に展開する構成としています。

【武具・刀剣】

かつて大名家で行われていた「具足飾り」が再現され、武士が武具に対して抱いていた尊崇の想いや、武家の故実を偲ぶことができます。



【茶の湯】

名古屋城二の丸御殿にあった「猿面茶室」が復元されています。茶の湯は江戸時代になると「御数寄屋」の接待として武家の公式行事となりました。

【能】



名古屋城二の丸御殿の能舞台が原寸大で復元されています。大名家には必ず能舞台が設けられ、能は武家の式楽として公式接待や慶事の際に演じられました。

(財)名古屋観光コンベンションビューロー
「近世武家文化」への誘いより引用

蓬左文庫

尾張徳川家の旧蔵書を中心に和漢の優れた古典籍を所蔵する公開文庫です。現在の蔵書数は、約11万点。蔵書内容の豊富さが蓬左文庫の特徴となっています。さらに、書籍だけではなく、尾張徳川家に伝えられた2千枚をこえる絵図も所蔵しており、名古屋の城下図から世界図におよぶ古地図や、屋敷図・庭園図など、

多彩な内容の絵図が含まれています。蔵書の閲覧のほかに、徳川美術館の大名道具と合わせて、武家の学問と教養など、近世武家文化をわかりやすく紹介する展示や、徳川美術館・徳川園と連携した講演会などを企画開催します。



【展示室】

尾張徳川家伝来の書物を中心に展示しています。



(財)名古屋観光コンベンションビューロー
「近世武家文化」への誘いより引用



【龍門の瀧】

龍門瀑ともいわれ、鯉が滝を登りきって竜となったという登竜門伝説に基づく滝の一形式です。尾張家江戸下屋敷跡地にあった滝の石を使用し、徳川園に再現しました。

【黒門】

明治33年(1900)に完成した尾張徳川家の邸宅の遺構で、総けやき造りの三間薬医門です。



【虎仙橋】



【虎の尾】



【大曽根の瀧】



【龍仙湖】

(財)名古屋観光コンベンションビューロー
「近世武家文化」への誘いより引用